節電へのご協力をよろしくお願いします

期間：7月1日(月)～9月30日(月)の平日〔8月13日(火)～15日(木)を除く〕
時間：9：00～20：00

滋賀県から「夏の節電クールアクション2013」が出され、関西広域連合の節電目標等を踏まえ、平成22年度比9%削減を目安とする節電の取り組みがされています。

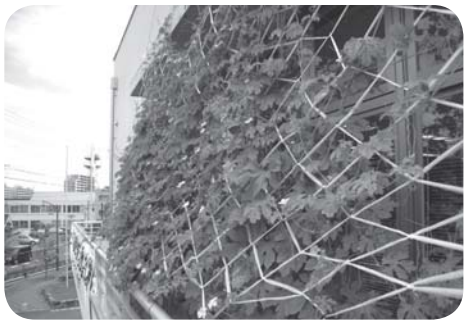
ただし、産業活動や病院・鉄道などのライフラインや都市機能等の維持については支障のない範囲で取り組むとしています。また、高齢者や乳幼児、体調の悪い人がいるご家庭には、健康上支障のない範囲での節電をお願いしています。

市役所でも、各施設も含めて節電を徹底するため、照明の間引きのほか、緑のカーテン等の取り組みを実施しています。

◆環境課
☎587－6003
FAX 587－3834

■節電・電力需給に関する情報をwebで紹介されています
政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」 ▶ http://www.setsuden.go.jp
関西電力ホームページ ▶ http://www.kepco.co.jp/

みどりのカーテン しませんか？



市役所などの公共施設で、省エネを目的に緑のカーテンを実施しています。この取り組みも、年を重ねるごとに、ご家庭や地域、PTAなどの皆さんのご協力により定着してきています。

ゴーヤのほかにも、アサガオやフウセンカズラ、ツルマメなど、つる性の植物であれば、緑のカーテンを作ることができます。

山(希望が丘)・家棟川・びわ湖(あやめ浜)での生態(魚・貝)調査

●**日時**　8月3日㈯午前9時／市役所駐車場集合
※雨天の場合は8月10日に順延
●**定　員**　30人※子どもは保護者同伴要
●**内　容**
- 山のダムや沢にはどんな生き物がいるのかな？
- びわ湖・あやめ浜でしじみやたてぼし貝を拾い、たてぼしごはんやしじみ汁を味わいます
- 家棟川で舟に乗り、投網や刺し網で魚をつかみます

●**費　用**　1,000円(昼食代を含む、子ども同額)
●**持ち物**　網、川や湖に入れる靴、水着、バケツ、帽子、水筒、虫よけ対策(源流域で必要)
●**主催**　野洲市、えこっち やす（環境基本計画推進会議）／自然・山部会、NPO法人家棟川流域観光船、びわ湖の水と地域の環境を守る会
●**申し込み**　えこっち やす事務局(環境課内) ☎587－6003
NPO法人家棟川流域観光船：北出☎589－2267

滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの協力、TOTO水環境基金の助成

毎月第4土曜は
廃食油回収の日

7月27日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近
回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎587－6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎586－1441

歴史の小窓
ー学芸員のメッセージー

⑯

歴史民俗博物館
☎587-4410、Fax587-4413

【休館日】月曜日、7月16日(火)　※15日は開館　市民は入館無料

◆テーマ展「古代・中世の出土銭貨―近江湖南の出土遺跡から―」／7月6日(土)～9月29日(日)

◆第5回弥生の森写真展・ふぉれすとフォトギャラリー／9月1日(日)まで

※展示作品募集中

◆古代のハス「大賀ハス」7月下旬頃まで開花

◆弥生の森体験学習／夏休み期間中は毎日開催（休館日を除く）、まが玉作り（約60分・500円）など

◆野洲市大岩山出土・日本最大の銅鐸里帰り！

1881（明治14）年の発見以来、東京国立博物館より初の里帰り

■開館25周年記念展
10月5日(土)～11月24日(日)

古代の銭貨

1999（平成11）年に奈良県飛鳥村の飛鳥池遺跡から560点におよぶ富本銭が出土しました。富本銭は、飛鳥池遺跡の調査により、これまで日本最古の銭貨とされてきた和同開珎（708年発行）より古い銭貨であることが判明しました。富本銭は直径2.4㎝、重さ4.2g、上下に「富本」と並び、左右に古代中国の陰陽五行の考えにもとづく7つの突起が配置されています。このように特殊な図柄と銭文が上下に2文字の富本銭は、これまで江戸時代に流行した縁起物の絵銭の一種と誤解されてきました。

元正天皇の詔（715年）には「国家の隆泰は要ず、民を富ましむるに在り。民を富ましむる本は、つとめて貨食に従う」とあり、国家や国民を豊かにするのは経済で、富本のいわれはここからきていますが、その出典は古代中国にあると言われています。

『日本書紀』天武天皇12（683）年の段には「今より以後必ず銅銭を用い、銀銭を用いることなかれ」とある文言は、当時の政府が銅銭の使用を促し、銀銭の使用を禁止しています。和同開珎以前に銅銭や銀銭が使われていたことをあらわしていますが、これまでこの銅銭や銀銭の銭種については、明確な答えがありませんでした。

しかし、飛鳥池遺跡の調査によりこの銅銭が富本銭で、銀銭は無文銀銭と理解されるようになりました。富本銭以前に流通していた無文銀銭は、直径3㎝、重さ10gで中央に2㎜の小さな穴があり、銭文はありません。表面には重さを調整するための、銀小片を張り付けるものや刻印を施したものなどがあるので、銀の価値による交換材ではないかとも考えられています。

慶雲5（708）年に埼玉県秩父から和銅（ニギアカネ）の塊が発見され、元明天皇はこれにより和銅と改元します。奈良の都の造営に合わせて発行された和同開珎は、中国・唐の開元通宝をモデルに作製されたと言われています。銭文の「和同」は古代中国の「天地和同」として文献に現れ、陰陽五行にもとづく調和の世界を銭貨で表現しています。

和同開珎の開鋳後52年を経て、新銭の万年通宝（760年）が発行されます。新銭は政府により和同開珎の10倍の価値が付与されました。その後、10回にわたり新銭が発行されますが、銅鉱の原料不足等を背景に乾元大宝（958年）をもって、古代の銭貨鋳造は終わりをむかえます。

歴史民俗博物館では、7月6日(土)～9月29日(日)の間、テーマ展「古代・中世の出土銭貨―近江湖南の出土遺跡から―」を開催します。湖南の遺跡から出土した和同開珎や無文銀銭と中世銭貨などを展示していますので、一度ご来館ください。

（博物館学芸員　徳網克己）

和同開珎（市教育委員会）

富本銭（「日本出土銭総覧」より）

無文銀銭（琵琶湖博物館）